

# リアルタイム地震防災研究小委員会委員会活動終了報告

## 1. 活動目標

今日の観測・通信・解析技術や電子計算機の進展状況を背景とし、更なる地震災害軽減を目指す一つの方向性として、時々刻々変化する現象に対応したリアルタイム地震防災システムの調査研究、普及活動を行う。

## 2. 活動方針

- 地震記録をリアルタイムに処理して、地震諸元、地震波到来後の地盤震動などの時空間分布をできる限り正確に求める。
- 都市基盤システムなどの被害推定と制御をリアルタイムかつ動的に行う。
- 2次災害防止のために適切なオンライン復旧と避難戦略を策定する。
- インターネットによる関連情報のリンク、小委員会活動のホームページ作成、情報発信。

## 3. 活動内容

- 国内外におけるリアルタイム地震防災システムの現状調査を行い、システムの機能、考え方、特徴などを整理した。また、ブレンスティング方式により問題点、改善点をとりまとめ、リアルタイム地震防災学を確立するための方法論の枠組みを整理した。
- 委員会は3年間に17回開催した。委員あるいは外部講師による話題提供・見学会を通して本研究課題を科学的に総合化し、リアルタイム地震防災に関する技術論の展開、その活用のあり方について検討した。
- 本小委員会の活動成果をまとめるとともに、シンポジウムを開催することによって新しいパラダイムとしてのリアルタイム地震防災研究、先端技術を紹介した。
- ホームページを開設し、小委員会活動の詳細を公開した。

## 4. 委員の意見（共通認識と反省）

- 「早期地震被害推定システム」の枠に固執することなく、より応用範囲の広い概念としてリアルタイム地震防災を捉えることが必要である。
- 地震動に基づく被害推定のみではなく、「目的」に応じた様々なモニタリング手段が考えられる。
- 「目的」を明確にしてシステムを構成することが肝要である。
- 新技術(特にIT技術分野)を取り入れることにより、更なる発展の可能性がある。
- 低頻度地震に対応した総合防災を視野に入れる必要がある。
- 時間尺度を含めた「リアルタイム」の定義が明確にならなかった。
- 事後の検知については地震動モニタリングに偏重していた。
- 社会システムとしての情報活用とフィードバックの議論があまりなかった。

## 4. 活動成果の還元と今後

土木学会会員への成果還元のため、下記に示すように2回のシンポジウムを開催した。

- 第1回リアルタイム地震防災シンポジウム - リアルタイム地震防災の現状と今後 -  
平成11年1月22日（土木学会図書館講堂）
- 第2回リアルタイム地震防災シンポジウム - リアルタイム地震防災の近未来の姿を探る -  
平成12年5月18日～19日（土木学会図書館講堂）

さらに委員会活動終了に当たり、活動成果を土木学会論文集に委員会報告（リアルタイム地震防災の近未来を探る（仮題））として公表するため現在原稿を執筆中である。この件については既に論文集編集委員会第1小委員会ならびに地震工学委員会運営幹事に報告済みである。

委員の意見、反省点を踏まえ、新たに地震工学のソフト研究に関する小委員会の発足を企画中である。